

令和7年度 事務事業実績測定調査

1. 事務事業の基礎情報										調査番号 512
事務事業名称		枚方市駅周辺再整備ビジョン推進事業								
担当部署(R8年度機構)		部：	市駅周辺まち活性化部	課：	市駅周辺まち活性化部	区分	持続的事業			
基本項目	総合計画	基本目標	4.地域資源を生かし、人々が集い活力がみなぎるまち				細区分	投資的区分		
		施策目標	18.人々が集い賑わい、魅力あふれる中心市街地のあるまち				性質	交通・都市基盤		
	市長公約との関係性		所信表明 (R5年9月)	○	市政運営方針	R6年度	R7年度	R8年度	R9年度	
	事業期間		事業開始： 2013(H25)年度 ～ 事業終了予定： 未定(継続実施含む)							
	根拠法令等		枚方市事務決裁規程							
	関係附属機関等		該当なし							
	関係補助金等		該当なし 補助金性質： —							
詳細項目	事業の目的 (最終アウトカム) ・目指すべき状態 ・課題が解決した状態		枚方市駅周辺において、全ての世代が様々なライフスタイルを実現し、交流できるまちとなる。							
	対象者(受益者)		枚方市駅周辺の各施設(公共施設、商業施設等)の利用者及び事業者、並びに市駅周辺への来街者							
	現状・課題		駅前広場の交通混雑や周辺施設の老朽化など広域中心拠点として必要な都市機能が充実しておらず、多様化する市民ニーズに対応した賑わいのあるまちになっていない。							
	事業の概要		「枚方市駅周辺再整備ビジョン」に基づき、本市の中心市街地として魅力あふれる賑わいのあるまちの実現に向けた連鎖型まちづくりの具体化を図るため、枚方市駅周辺再整備基本計画や枚方市新庁舎整備基本構想を策定し、各街区における取り組みを進める。併せて、まちの魅力や価値の向上を持続的に育むためにエリアマネジメント促進に向けた取り組みを進める。							
	年間の主な事務		・枚方市駅周辺の再整備に係る企画、立案 ・枚方市駅周辺の再整備に係る事業手法の検討 ・枚方市駅周辺の再整備に係る関係者との調整 ・枚方市駅周辺の再整備に係る会議等の開催 ・枚方市駅周辺の再整備に係るエリアマネジメントの検討							

2. 事務事業への投入コスト(インプット)									
人 員 体 制	(人)		R6年度実績	R7年度実績	R8年度実績	R9年度実績			
	正職員		7.10人	7.43人	—	—			
	再任用		0.00人	0.00人	—	—			
	任期付職員		0.50人	0.50人	—	—			
	会計年度任用職員		0.00人	0.00人	—	—			
	特別職非常勤		0.00人	0.00人	—	—			
	附属機関委員		0.00人	0.00人	—	—			
決 算 額	(千円)		R6決算額	R7決算額	R8決算額	R9決算額	R7予算額(参考)	予算執行率(参考)	
	歳 出	正職員、再任用、任期付職員	57,088	63,661	—	—			
		会計年度任用職員	0	0	—	—			
		特別職非常勤	0	0	—	—			
		附属機関委員	0	0	—	—			
		人件費計	57,088	63,661	—	—			
		物件費計	538,809	110,015	—	—	131,272	83.8%	
	歳出計		595,897	173,676	—	—			
	歳 入	国庫支出金	128,780	4,000	—	—	5,600		
		府支出金	0	0	—	—	0		
		受益者負担(使用料・手数料)	0	0	—	—	0		
		市債	330,800	0	—	—	0		
		その他	47,734	85,000	—	—	113,333		
	歳入計(物件費に充当される特定財源)		507,314	89,000	—	—	118,933		
	一般財源(物件費充当のみ)		31,495	21,015	—	—	12,339		

(留意事項)
※正職員・再任用・任期付の
人件費は、人員配置を
もとに平均人件費を乗算
しています。
※「歳入」欄には物件費に
充当されるもののみ記載
されています。

3. 具体的な活動(アクティビティ)

年間の主な活動指標	単位	R6実績	R7実績	R8実績	R9実績
① 枚方市における国・府・市有財産の最適利用推進連絡会議の開催	回	1 回	0 回	— 回	— 回
② 天野川活用に向けた関係者との会議	回	2 回	9 回	— 回	— 回

4. 活動による結果(アウトプット)および変化・便益(アウトカム)

アウトプット(活動が産み出した結果)

ロジックモデル

アウトプット①

説明

枚方市駅周辺再整備の将来像である「全ての世代が様々なライフスタイルを実現し、交流できるまち」を関係者や市民等と共有し、具体化が図られる。

指標

R6

R7

R8

R9

単位

目標

30

60

80

100

%

実績

25

45

—

—

%

算出方法

《内訳》
②④⑤街区の事業化に向けた検討 4カ年分、③街区の事業実施 2カ年分、新庁舎建設に向けた検討 4カ年分

直接アウトカム(結果による変化・便益)

アウトカム①

説明

—

指標

R6

R7

R8

R9

単位

目標

—

—

—

—

—

実績

—

—

—

—

—

算出方法

—

ロジックモデル

アウトプット②

説明

枚方市駅周辺再整備では、新たに導入する都市機能と、自然や文化・歴史などの地域資源を有機的につなぐことで、居心地が良く、歩いて楽しいウォーカブルなまちをめざしている。地域資源として、特に重要な天野川において、ウォーカブルなまちづくりの実現に向けた活用方法について、多様な関係者との連携により検討を進める。

指標

R6

R7

R8

R9

単位

目標

2

4

6

8

団体

実績

2

19

—

—

団体

算出方法

連携する団体の数。毎年、2団体以上の連携団体を増やす。

アウトカム②

説明

—

指標

R6

R7

R8

R9

単位

目標

—

—

—

—

—

実績

—

—

—

—

—

算出方法

—

5. 中長期的な変化・便益(中間アウトカム)

- ・枚方市駅周辺が賑わい、魅力あふれる中心市街地であると感じている市民の割合の増加
- ・地価の上昇

6. 取組実績に対する自己分析・総括

R6 年度	・②街区については、令和6年8月に一部地権者による「枚方市駅南地区まちづくり協議会」が設立されたことを受け、市街地再開発事業の具体化やまちづくりへの機運醸成に向けた技術的な支援を行った。 ・③街区については、市駅前行政サービスフロアの不動産取得や内装工事を進め、令和6年9月に施設を開設した。また、フロアの情報発信や利用者への案内の充実、アンケートを実施するなど、利用者視点を踏まえながら取り組みを進めることで、利便性の高い行政サービスの提供につなげた。 ・④⑤街区については、土地区画整理事業等の都市計画素案の作成や環境影響評価の検討など、事業化に向けた取組を行った。 ・エリアマネジメントの導入に向け、その目的や目指す姿、組織化、実施項目、活動内容についての方針等の検討を進めた。 ・新庁舎整備については、他自治体の先進事例の視察を行うとともに、市民アンケートや高齢者・障害者などへの個別意見聴取、市内高等学校の生徒によるワークショップを実施するなど幅広い基礎調査を行い、有識者の助言を得ながら新庁舎に導入する機能の検討を進めた。
R7 年度	・新庁舎位置が確定していないため、枚方市駅周辺再整備進捗率(アウトプット指標①)の実績値が45%と目標値に比べて遅れている。天野川の活用に向けた取組(アウトプット指標②)に関しては、19団体と連携することができ、当初の目標値を大きく上回る実績となった。 ・②街区では、地権者主体のまちづくり協議会に対して技術的支援を行い、令和8年3月に「枚方市駅前南地区市街地再開発準備組合」が発足した。 ・④街区及び⑤街区については、庁舎位置の確定に向けて様々な観点から比較検討を行うとともに、民間活力導入の可能性について事業者へのヒアリング等を行った。 ・エリアマネジメントへの発展も視野に入れた天野川のさらなる活用に向けた取組については、河川管理者である大阪府とともに、周辺の地域団体、事業者などで構成される「天野川の活用に向けたワークショップ」を開催した。 ・新庁舎整備に向けた取組では、庁舎に導入する機能について令和6年度に実施した市民アンケートのほか、障害者、高齢者、子育て世帯などの方々に対する個別意見聴取、高校生ワークショップ、先進事例の研究などの基礎調査を踏まえ、庁内横断的なワーキングチームなどにおいて検討するとともに、有識者から助言・意見などをいただきながら進めた。
R8 年度	
R9 年度	

7. 今後の取組方針(改善・対応策など)

R8年度 取組方針	・②街区については、引き続き、「枚方市駅前南地区市街地再開発準備組合」への技術的支援を行うとともに、駅前広場の再整備や④街区と連携したみどりの大空間の形成に向けた検討を行う。 ・④街区及び⑤街区の再整備の推進に向け、市民や市議会のご意見を伺いながら、市有地の有効活用の検討や複数の庁舎位置案について、透明性・客観性を確保した詳細な比較を行うなど、まちづくりの具体化に取り組む。 ・天野川のさらなる活用に向けて、引き続き、多様な関係者とのワークショップを開催するとともに、大阪府と連携し、国のかわまちづくり支援制度の活用も見据えて検討を進める。また、本取組などを通じて、持続的にまちの魅力を高めるためのエリアマネジメントの可能性を検討する。 ・新庁舎整備については、引き続き、ワーキングチームをはじめ庁内横断的に庁舎機能の具体的な検討を進め、有識者などからのご意見を伺いながら、新庁舎整備基本計画の策定に向けて取り組む。	R8年度 方向性	現状維持
--------------	---	-------------	------

参 考	方向性の経過	R6年度の方向性 (R5実績測定)	R7年度の方向性 (R6実績測定)	R8年度の方向性 (R7実績測定)	R9年度の方向性 (R8実績測定)	R10年度の方向性 (R9実績測定)
		現状維持	現状維持	現状維持	—	—

令和7年度 事務事業実績測定調査

1. 事務事業の基礎情報

調査番号 513

事務事業名称			枚方市駅周辺地区第一種市街地再開発事業						
担当部署(R8年度機構)			部：市駅周辺まち活性化部		課：市駅周辺まち活性化部		区分	持続的事業	
基本項目	総合計画	基本目標	4.地域資源を生かし、人々が集い活力がみなぎるまち				細区分	投資的区分	
		施策目標	18.人々が集い賑わい、魅力あふれる中心市街地のあるまち				性質	交通・都市基盤	
	市長公約との関係性		所信表明(R5年9月)	○	市政運営方針	R6年度	R7年度	R8年度	R9年度
					○		○		
	事業期間		事業開始： 2020(R2)年度				～ 事業終了予定： 2025(R7)年度		
	根拠法令等		都市計画法、都市再開発法						
	関係附属機関等		該当なし						
関係補助金等		枚方市駅周辺地区市街地再開発事業補助金				補助金性質： 事業費補助			
詳細項目	事業の目的 (最終アウトカム) ・目指すべき状態 ・課題が解決した状態		市駅(北口)駅前広場及び区画道路等の公共施設整備による交通結節点機能の強化とあわせて、土地の合理的かつ健全な高度利用、多様な都市機能と都市居住の集積、歩行回遊性や防災性の向上等総合的に推進することにより、駅を中心とした一体的なまちづくりが実現できている。						
	対象者(受益者)		枚方市駅周辺の各施設(公共施設、商業施設等)の利用者及び事業者、並びに市駅周辺への来街者/枚方市駅周辺地区第一種市街地再開発事業区域内の関係者						
	現状・課題		市駅(北口)駅前広場への通過交通や駅周辺住宅地アクセス車両などの流入による交通渋滞、歩行者の回遊空間がないなど、道路や駅前広場等の公共施設が不足している。また、区域内の主要な建物の老朽化が進んでおり、大規模災害に備えた防災・減災力の不足など広域中心拠点として必要な都市機能が充実していない。						
	事業の概要		他の街区に先駆け、「枚方市駅周辺再整備ビジョン」に定めるまちなか交流拠点及び広域駅前拠点の一部の形成を図るため、駅前広場や区画道路等の公共施設及び多様な都市機能と都市居住が集積する建築物の一体的な整備など、事業の実現に向けた技術的・財源的支援を行う。						
	年間の主な事務		・枚方市駅周辺地区市街地再開発組合への技術的支援						

2. 事務事業への投入コスト(インプット)									
人員体制	(人)		R6年度実績	R7年度実績	R8年度実績	R9年度実績			
	正職員		2.30人	1.79人	—	—			
	再任用		0.00人	0.00人	—	—			
	任期付職員		0.00人	0.00人	—	—			
	会計年度任用職員		0.00人	0.00人	—	—			
	特別職非常勤		0.00人	0.00人	—	—			
	附属機関委員		0.00人	0.00人	—	—			
決算額	(千円)		R6決算額	R7決算額	R8決算額	R9決算額	R7予算額(参考)	予算執行率(参考)	
	歳出	内 訳	正職員、再任用、任期付職員	17,682	14,694	—	—		
			会計年度任用職員	0	0	—	—		
			特別職非常勤	0	0	—	—		
			附属機関委員	0	0	—	—		
		人件費計		17,682	14,694	—	—		
		物件費計		503,995	620,170	—	—	623,248	99.5%
	歳出計		521,677	634,864	—	—			
	歳入	国庫支出金	224,863	211,063	—	—	127,463	(留意事項) ※正職員・再任用・任期付の 人件費は、人員配置を もとに平均人件費を乗算 しています。 ※「歳入」欄には物件費に 充当されるもののみ記載 されています。	
		府支出金	0	0	—	—	0		
		受益者負担(使用料・手数料)	0	0	—	—	0		
		市債	238,400	339,500	—	—	387,400		
		その他	21,117	66,600	—	—	88,577		
		歳入計(物件費に充当される特定財源)		484,380	617,163	—	—		603,440
	一般財源(物件費充当のみ)		19,615	3,007	—	—	19,808		

3. 具体的な活動(アクティビティ)

年間の主な活動指標	単位	R6実績	R7実績	R8実績	R9実績
① 市街地再開発組合に対して、事業推進及び課題解決に向けた技術的・財源的支援を行う。	億円	5 億円	6 億円	— 億円	— 億円

4. 活動による結果(アウトプット)および変化・便益(アウトカム)

アウトプット(活動が産み出した結果)

ロ ジ ック モ デ ル	アウトプット①	説明	まちなか交流拠点及び広域駅前拠点の一部が形成される。					
		指標	事業進捗率 (R2年度～R7年度の年割)					
				R6	R7	R8	R9	単位
			目標	94	100	—	—	%
			実績	94	100	—	—	%
		算出 方法	再開発組合への補助金、公管金の事業費の執行率(決算額÷補助金・公管金の総合計)					

直接アウトカム(結果による変化・便益)

ロ ジ ック モ デ ル	アウトカム①	説明	—					
		指標	—					
				R6	R7	R8	R9	単位
			目標	—	—	—	—	—
			実績	—	—	—	—	—
		算出 方法	—					

5. 中長期的な変化・便益(中間アウトカム)

- ・市駅(北口)駅前広場の公共施設整備による交通結節点としての乗換利便性等の向上
- ・新たな都市機能の導入による賑わいや連続性の創出、回遊性の向上
- ・地価の上昇

6. 取組実績に対する自己分析・総括

R6 年度	・枚方市駅周辺地区市街地再開発組合への技術的支援を行うなど、再開発組合と連携し、すべての施設建築物と区画道路がしゅん工した。 ・新たな複合施設では、宿泊施設や商業・業務機能、多様な世代のニーズに対応した居住施設がオープンしたことで、中心市街地におけるさらなる賑わいが創出された。 ・令和7年度の北口駅前広場の改良工事の完成に向けて、関係者と連携し、技術的支援等を行った。
R7 年度	・令和8年2月に枚方市駅北口駅前広場の拡張整備工事が完成し、公共交通と一般車両の分離や歩道拡幅、連続したシェルターの設置などにより、安全性や利便性、快適性が向上した。 ・令和6年にオープンした「ステーションヒル枚方」などに続き、同広場が完成したことで、枚方市駅周辺再整備事業のリーディングプロジェクトである市街地再開発事業の全ての工事は完了を迎えた。
R8 年度	
R9 年度	

7. 今後の取組方針(改善・対応策など)

R8年度 取組方針	市街地再開発事業の全ての工事は完了を迎えた。	R8年度 方向性	終了
--------------	------------------------	-------------	----

参 考	方向性の経過	R6年度の方向性 (R5実績測定)	R7年度の方向性 (R6実績測定)	R8年度の方向性 (R7実績測定)	R9年度の方向性 (R8実績測定)	R10年度の方向性 (R9実績測定)
		現状維持	現状維持	終了	—	—

令和7年度 事務事業実績測定調査

1. 事務事業の基礎情報										調査番号 912
事務事業名称		市駅周辺まち活性化部運営事務								
担当部署(R8年度機構)		部：	市駅周辺まち活性化部	課：	市駅周辺まち活性化部	区分	行政運営事業			
基本項目	総合計画	基本目標	9.施策体系外				細区分	行政運営区分		
		施策目標	99.施策体系外				性質	内部事務・行政運営		
	市長公約との関係性		所信表明 (R5年9月)	—	市政運営方針	R6年度	R7年度	R8年度	R9年度	
	事業期間		事業開始： 不明 ～ 事業終了予定： 未定(継続実施含む)							
	根拠法令等		枚方市事務決裁規程							
	関係附属機関等		該当なし							
	関係補助金等		該当なし 補助金性質： —							
詳細項目	事業の目的 (最終アウトカム) ・目指すべき状態 ・課題が解決した状態		庶務を円滑に行うことができる。							
	対象者(受益者)		所属職員/部内事務担当者							
	現状・課題		事務の効率化を図りつつ、庶務及び他の業務に滞りなく対応する必要がある。							
	事業の概要		議会対応 情報公開請求対応							
	年間の主な事務		議会対応 情報公開請求対応							

2. 事務事業への投入コスト(インプット)									
人員体制	(人)			R6年度実績	R7年度実績	R8年度実績	R9年度実績		
	正職員			0.40人	0.58人	—	—		
	再任用			0.00人	0.00人	—	—		
	任期付職員			0.00人	0.00人	—	—		
	会計年度任用職員			0.00人	0.00人	—	—		
	特別職非常勤			0.00人	0.00人	—	—		
	附属機関委員			0.00人	0.00人	—	—		
決算額	(千円)			R6決算額	R7決算額	R8決算額	R9決算額	R7予算額(参考)	予算執行率(参考)
	歳出	内訳	正職員、再任用、任期付職員	3,075	4,761	—	—		
			会計年度任用職員	0	0	—	—		
			特別職非常勤	0	0	—	—		
			附属機関委員	0	0	—	—		
		人件費計		3,075	4,761	—	—		
		物件費計		821	542	—	—	1,068	50.7%
	歳出計			3,896	5,303	—	—		
	歳入	国庫支出金		0	0	—	—	0	(留意事項) ※正職員・再任用・任期付の人員費は、人員配置をもとに平均人件費を乗算しています。 ※「歳入」欄には物件費に充当されるもののみ記載されています。
		府支出金		0	0	—	—	0	
		受益者負担(使用料・手数料)		0	0	—	—	0	
		市債		0	0	—	—	0	
		その他		0	0	—	—	0	
歳入計(物件費に充当される特定財源)			0	0	—	—	0		
一般財源(物件費充当のみ)			821	542	—	—	1,068		

3. 具体的な活動(アクティビティ)					
年間の主な活動指標	単位	R6実績	R7実績	R8実績	R9実績
① —					

4. 活動による結果(アウトプット)および変化・便益(アウトカム)

アウトプット(活動が産み出した結果)							直接アウトカム(結果による変化・便益)								
ロジックモデル	アウトプット①	説明	—					アウトカム①	指標	説明	—				
		—					—								
			R6	R7	R8	R9	単位				R6	R7	R8	R9	単位
		目標	—							目標	—				
		実績	—							実績	—				
		算出方法	—							算出方法	—				

5. 中長期的な変化・便益(中間アウトカム)

—

6. 取組実績に対する自己分析・総括

R6年度	議会対応・情報公開請求対応等を適正に執行した。
R7年度	議会対応・情報公開請求対応等を適正に執行した。
R8年度	
R9年度	

7. 今後の取組方針(改善・対応策など)

R8年度取組方針	事務の効率化を図りながら適正に執行していく。	R8年度方向性	現状維持
----------	------------------------	---------	------

参考	方向性の経過	R6年度の方向性 (R5実績測定)	R7年度の方向性 (R6実績測定)	R8年度の方向性 (R7実績測定)	R9年度の方向性 (R8実績測定)	R10年度の方向性 (R9実績測定)
		現状維持	現状維持	現状維持	—	—